松山大学論集
第二十六巻第二号抜刷
平成二十六年六月発行

『外交時報』総目次―戦後編(一)

――一九五二年一一月第九五〇号～一九六一年一二月第九九三号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

資料

『外交時報』総目次－戦後編㈠

――一九五二年一一月第九五〇号～一九六一年一二月第九九三号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

本目録編纂の経緯

本目録の編者の一人（伊藤）は、かつて『外交時報総目次・執筆者索引－戦前編』を編纂し、二〇〇八年に日本図書センターより公刊した。これは外交時報社が戦前に発行した『外交時報』の、創刊号（一八九八年二月）から第九五六号（一九四五年四月）までに掲載された、すべての論文と記事を採録の対象とし、解題と執筆者索引を付したものである。同書が出版されたのち、引続き「戦後編」を要望する声も聞かれたが、諸般の事情により着手するに至らなかった。

一方、もう一人の編者である浜岡鷹行（筑波大学大学院地域研究研究科修士課程修了）は、独自に「戦後編」

の編纂作業を進めており、二〇〇九年九月までに、過半の書誌データの蒐集と入力を完了していた。

二〇一一年五月、両者は学外の研究会を介して相知るに至り、以後協力して「戦後編」の編纂と発表の準備を進めることになった。具体的には浜岡がデータの入力と確認を、伊藤が校訂と整形を主に担当し、二〇一四年五月には、およそ三千八百件の論文・記事情報からなる本目録を完成させるに至った。

凡　例

一、本目録は、外交時報社発行『外交時報』一九五二年一一月第九五〇号～一九九八年九月第一三五一号に掲載された論文および記事の総目次である。今後、五回に分けて『松山大学論集』に掲載する予定である。

一、目次は論題名〔執筆者名〕、開始－終了ページの順とした。各号における論文や記事の排列は、掲載順（ページ順）を原則とした。

一、論題は原則として本文に従った（明かな誤植は修正した）。また採録に際しては、なるべく詳細に記載するよう努めた。

一、広告や予告、あきらかに埋草であって題名のないもの等については、編者の判断により省略した。とくに社告と編集後記の類は、原則としてすべて省いた（この点は「戦前編」と異る）。

一、本文に執筆者名が記されていない論説等に関しても、目次などから著者名が確認できるものについては、執筆者名を付け加えた。

一、第九五〇号～第九五六号については、戦中期に刊行されたものと（号数が）重複するため、「第九五〇号a」等として採録した。重複が生じた理由は詳かでない。また第九五三号については、一九四五年に発行されたもののほか、一九五三年に刊行されたもの、一九五八年に刊行されたものの、合計三種類が存在する。本目録に採録したのは、戦後に刊行された後二者で、それぞれ「第九五三号a」「同b」として区別した。なお第九五三号aについては、国立国会図書館や早稲田大学中央図書館にも収蔵されておらず、編者らが所蔵を確認できたのは、慶應義塾大学図書館（三田メディアセンター）のみである。

一、戦後期の『外交時報』は、二度の休刊を挟んで三期（一九五二～五三年、一九五八～八六年、一九八七～九八年）に大別される。それぞれの休刊の事情や、各期の誌面の特徴などについては、今後の研究に委ねたい。

総　目　録

第九五〇号a　一九五二年一一月号

復刊の辞〔武内文彬〕　二－一〇
国連軍の性格と国連軍協定〔神川彦松〕　一一－二四
日本駐留軍の裁判管轄権問題－中国の治外法権の轍を踏むな〔植田捷雄〕　二五－三四
国際決済方式確立の必要と日本の責重な体験〔木内信胤〕　三五－四一
国際連合と日本〔横田喜三郎〕　四二－五〇

国際随想　めくら外交〔堀内謙介〕　五一－五二
国際随想　研究機関〔大蔵公望〕　五二－五三
国際随想　中共結成以前〔本郷賀一〕　五四－五五
国際随想　賭には勝つたけれど〔田尻愛義〕　五五－五六
国際随想　平和を恐れる心〔森恭三〕　五六－五七
ソ連・中国・朝鮮を衝く
ソ連世界政策の現段階－中ソ会談と第一九回党大会〔新関欽哉〕　五八－六四
中ソ会談の内容〔市川利次〕　六五－七一
朝鮮事変をめぐる心理戦争〔好本康雄〕　七二－八〇
新中国の実体－北京政府の三ヶ年〔宮崎世竜〕　八一－九二
座談会　これからの外交はどうあるべきか－本社主催　外交界長老座談会
〔有田八郎・天羽英二・沢田廉三・田中都吉・田村幸策・野村吉三郎・堀内謙介〕　九二－一〇五
資料　降伏・独立・国交回復条約集（上）〔外務省訳〕　一〇六－一二四
記者の眼　外交うら話　その都度外交あれこれ　一二五－一二六

第九五一号a　一九五二年一二月号

巻頭言　新内閣と外交立国　一－一
国際連合の在り方をめぐつて〔田畑茂二郎〕　二－一六
「冷たい戦争」は何処へ行く〔高田市太郎〕　一七－二四

日本の再軍備を世界はどう観る〔岡田任雄〕　二五－三四
ネール外交の真髄を衝く－実に東西両陣営不可欠のカケ橋〔蔵居良造〕　三五－四〇
国際随想　国会猛省の秋〔佐藤尚武〕　四一－四二
国際随想　終戦の御放送は録音でない〔湯沢三千男〕　四二－四四
国際随想　熱い国の冷めたい戦〔下田将美〕　四四－四五
国際随想　外交ということ〔山本熊一〕　四五－四七
国際随想　十三の被害者〔武内文彬〕　四七－四七
アメリカ合衆国共産党々史〔ニコラス・ローズベルト〕　四八－五五
ア米新大統領の外交政策は？〔A・T・ストルーマン〕　五六－五九
三十四代の米大統領　アイクの横顔　六〇－六〇
独立日本の国際的進路〔蠟山政道〕　六一－七二
国連軍の覚書と日本の対策－刑事裁判権の取扱い　七三－七六
国際綿業会談の成果と世界綿業の全貌〔田和安夫〕　七七－八九
東西南北〔市川利次〕　九〇－九九
語学の天才　ケナン大使　一〇〇－一〇〇
日本硫安工業の恩人ポープ氏－技術導入秘話〔土井正治〕　一〇一－一〇二
資料　降伏・独立・国交回復条約集（下）〔外務省訳〕　一〇三－一二四
記者の眼　岡崎外政の苦悩　一二五－一二六

第九五二号ａ　一九五三年一月号

巻頭言「田舎者外交」の超克　一－一
新共和党政権の対外政策とその批判〔神川彦松〕　二－一五
我が経済外交の新段階〔綿野收三〕　一六－二二
一九五三年の外交問題－原爆時代より水素爆弾時代へ　ＮＨＫ解説委員総動員執筆　二三－二三
一九五三年のアメリカ外交の課題〔平沢和重〕　二四－二六
ソヴィエト外交の展望〔前田義徳〕　二六－二八
本年初頭のイギリスの外交〔小川和夫〕　二九－三〇
日本の外交課題〔館野守男〕　三一－三三
フランスの直面する外交問題〔平野俊助〕　三三－三五
西ドイツの二大外交課題〔櫛部和夫〕　三五－三七
インド・東南ア・中近東の風雲〔佐々木凜一〕　三七－四〇
中国の外交課題〔小秋元隆一〕　四〇－四二
解決を迫られる賠償問題〔齋藤栄三郎〕　四三－四四
原爆時代より水爆時代へ〔繁田健太郎〕　四五－四七
第三次戦は必至か？　戦略的に見た米ソ戦－危機線上にある日本の地位〔土居明夫〕　四八－七三
外資導入の現況と問題点〔織田定信〕　七四－八三
一九五三年の世界経済　ＮＨＫ解説委員総動員執筆　八四－八四
アメリカ経済展開の方向〔齋藤栄三郎〕　八五－八七

ソ連経済の動向〔佐久間光彦〕　八七―九〇
複雑微妙なるヨーロッパ経済〔藤瀬五郎〕　九〇―九二
東南アジア開発問題〔鈴木明〕　九二―九四
世界経済に於ける日本〔藤瀬五郎〕　九四―九六
外資導入の現状と将来〔齋藤栄三郎〕　九六―九八
我が国の国際収支〔繁田健太郎〕　九八―一〇〇
中共貿易〔鈴木明〕　一〇〇―一〇二
国際随想　共貧圏の哲学〔加納久朗〕　一〇三―一〇五
国際随想　ユニティとダイヴァンティ〔須磨弥吉郎〕　一〇五―一〇六
国際随想　自由の国に「愛の不自由」〔磯部佑一郎〕　一〇六―一〇七
国際随想　党人往来〔宮川三郎〕　一〇七―一〇九
国際経済展望　一一〇―一一九
資料　日本の貿易関係条約集〔外務省訳〕　一二〇―一二〇
日本・インドネシア間貿易取極　一二〇―一二三
日本・タイ間貿易取極　一二四―一二八
日本・セイロン間貿易取極　一二八―一三一
日本・ブラジル間支払取極　一三一―一三三
附録（一）　一九五一年相互防衛援助統制法（バトル法）　一三三―一三六
（二）　バトル法付属品目表　一三六―一四〇

記者の眼　外交あれこれ　一四一－一四二

第九五三号ａ　一九五三年四月号

問題のヤルタ秘密協定－外交の舞台裏〔金生喜造〕　二－一八
米新外交政策の展望－波乱重畳の国際政局〔武内文彬〕　一九－二六
再軍備は合点がゆかぬ〔關口泰〕　二七－三五
世界の輿論（ヴォイス・オブ・ザ・ワールド）　三六－四二
米国新大統領と朝鮮戦争〔中保輿作〕　四三－四八
朝鮮事変と中共〔萱原信雄〕　四九－五一
在鮮日本財産の帰属－ダレス氏が対日平和条約に挿入〔足立利夫〕　五二－五四
ソ連新「五頭政治」の実体？－金的を射止めたマレンコフ首相〔ＸＹＺ〕　五五－六一
ソ連を擔う人々　六二－六二
ソ連政府・共産党組織図　六三－六三
特集　朝鮮の現勢 KOREAN HAND BOOK〔外交経済研究所編〕　六四－六四
第一篇　総論　六五－六八
第二篇　大韓民国の全貌　六八－七八
第三篇　朝鮮人民共和国の全貌　七八－八一
第四篇　フース・フー　八一－九〇
第三次対戦は避けられる－国際連合を世界政府へ〔グレンヴィル・クラーク〕　九一－一〇八

スターリン歿後のソ連外交の方向〔武内文彬〕　一〇九－一一八

第九五三号b　一九五八年八月号

復刊の言葉〔武内文彬〕　一－一
日本外交の出発点をどこにおくか〔森恭三〕　二－七
ド・ゴールの登場とヨーロッパ〔松尾邦之助〕　八－一三
外交随想　安楽は革命を生む〔西村熊雄〕　一四－一六
外交随想　スカルノさんとハツタさん〔斎藤鎮男〕　一六－一七
外交随想　スポーツ外交の舞台〔五島昇〕　一七－一七
世界のうごき　チトー再び集中砲火あびる・国の命運をかけるドゴール・ドイツ社会民主党はどこへゆく　一八－二一
国内のうごき　国の政治を動かすもの・抵抗する力とその主張・当面する主な対決点　二二－二五
ロンドン・レター　世界に底流するもの－核戦争の脅威・頂上会談・ナショナリズム〔XYZ〕　二六－三一
特集　日本外交の進路　その課題
超党派外交は可能か〔曾禰益〕　三二－三五
世論と外交〔近藤晋一〕　三六－三八
藤山外務大臣に聞く　わがアジア外交の基調〔藤山愛一郎〕　三九－四一
朝日・毎日・読売・共同　政治部長座談会　日本外交の新路線〔八幡次郎・松岡英夫・岡田冠・明峰嘉夫〕　四二－四七

日中修交をめぐる対立〔戸川猪佐武〕　四八－五一
アンケート　日中関係をどう打開するか〔岡崎文勲・山本熊一・南郷三郎・梨本祐平〕　五二－五六
海外論調　五七－五八
書評　ディーン・アチソン『力と外交』　五九－五九
ワシントン・レター　サミット・マッチにまつ－マクミランの訪米〔ＡＢＣ〕　六〇－六一
共産主義外交論
　フルシチョフ路線の基礎〔北見新〕　六二－六七
　中国外交の基本理念〔山本道夫〕　六七－七一
　東西交渉すすむ　七一－七一
外交官への道標　特殊な職業ではない－良識があつて語学のできる人を　七二－七三
条約集　日米原子力一般協定・日英原子力協定　七四－八二
外交日誌　八三－八四

第九五四号ａ　一九五八年九月号

巻頭言　忘却の危機〔武内文彬〕　一－一
世界経済の方向〔堀江薫雄〕　二－七
安全保障序論－その基本原則と武力の統制〔高橋通敏〕　八－一三
超党派外交は可能か－危機の意識と新しい視野の上に〔宇都宮徳馬〕　一四－一八
緊急特集　中東ふたたび危機に揺ぐ　一九－一九

中東問題の基本的考察－国連憲章五一条と集団的自衛権〔入江啓四郎〕　二〇－二六
アラブ民族主義の背景〔甲斐静馬〕　二七－三二
日誌　米英中東出兵から首脳会談提唱まで　三三－三三
朝日・毎日・読売・共同　外報部長座談会　世界情勢に転期－米英の中東出兵〔鈴川勇・渡辺善一郎・清水俊雄・岩立一郎〕　三四－三九
転換の序曲・イラク・クーデター〔塩沢寿美子〕　四〇－四三
世界のうごき　中東ふたたび火をふく・アラブ民族主義の目標・核専門家会議への期待・共産圏の経済協力進む　四四－四九
国内のうごき　異例の五大使会議ひらく・低迷つづく対中国政策・ゆれる労働運動の底流　五〇－五三
ロンドン・レター　中東の革命と世界〔ＸＹＺ〕　五四－五九
外交随想　アラビア料理〔岡崎勝男〕　六〇－六一
外交随想　二つの旅行〔織田定信〕　六一－六一
外交随想　カイロで迎えたお正月〔北村徳太郎〕　六二－六二
外交随想　洞くつはかく叫ぶ〔平沢清一郎〕　六二－六三
ワシントン・レター　アダムス補佐官の収賄事件・アイクのカナダ旅行〔ＡＢＣ〕　六四－六七
外交官への道標　グループ・テストの実際－総合力や分析力のほかにも折合う能力を　六八－六九
海外論調　七〇－七三
期待はずれの岸内閣〔宮崎吉政〕　七四－七八

世界不況をめぐる論調〔中島邦蔵〕　七九－八三
中国各紙に見る日本批判－三つの基本原則を追求〔山村治郎〕　八四－八七
書評　ジェローム・B・コーエン『日本の戦後経済』　八八－八九
書評　アレキザンダー・キヤンベル『インドの心』　八九－八九
書評『対外援助に関するアメリカ上・下両院の議事録』　九〇－九〇
中近東問題研究書紹介　九一－九二
外交記録集　国連安保理事会におけるレバノン問題と日本〔外務省国際連合局〕　九三－九六
外交日誌　九六－九八

第九五五号a　一九五八年一〇月号

巻頭言〔武内文彬〕　一－一
中東問題と国際連合〔大平善梧〕　二－八
ＩＭＦの改組と世界通貨問題－ニューデリ年次大会の課題〔渡辺武〕　九－一四
安全保障序論（続）〔高橋通敏〕　一五－二一
ロンドン・レター　国際社会の新しい期待〔ＸＹＺ〕　二二－二七
ワシントン・レター　中ソ会談をこう見る〔ＡＢＣ〕　二八－三一
特集　日中関係の打開
　日中外交の方向〔田尻愛義〕　三二－三八
　事態解決のために－中国から帰つて〔佐多忠隆〕　三九－四二

北京から訴える〝三つの原則〟に答えよ－中国の基本態度に変りはない〔西園寺公一〕　四三－四七
日中文化交流をはばむもの〔中島健蔵〕　四八－五〇
貿易再開への提案－日本経済再編の契機〔梨本祐平〕　五一－五三
中国政策の問題点－日中関係の史的分析〔山本道夫〕　五四－六五
中国の対外政策とその国内的背景－修正主義批判の意義〔大久保泰〕　六六－七一
世界のうごき　押し出された緊急総会・安定導くアラブの団結・ココムすでに実効失う・核実験停止に続くもの　七二－七五
国内のうごき　二分された日本の外交・静観なお続く日中関係・うごきかねる景気対策・勤評抗争がのこすもの　七六－七九
外交随想　日本外交の目的〔加納久朗〕　八〇－八一
外交随想　中国の旅から〔花柳徳兵衛〕　八一－八二
海外論調　八三－八六
外交官への道標　研修所の生活－不可欠な広い常識と活動的なセンスの素養　八七－八九
書評　ユースタス・セリグマン『アメリカはその中国政策を変更すべきか』　九〇－九一
書評　ジョージ・F・ケナン『干渉の決定』　九二－九二
書評　サミルエル・モリスン『第二次世界大戦の戦略に対する米国の寄与』　九三－九三
外交記録集　中国政策に関するメモランダム〔アメリカ国務省〕　九四－九五
外交日誌　九六－九七
読者への窓　九八－九八

第九五六号ａ　一九五八年一一月号

巻頭言　藤山外交と二つの問題点〔武内文彬〕　一－一
外交政策と国家的利益－その内容を如何に規定し、如何に実現するか〔蠟山政道〕　二－五
台湾海峡問題と日米安保条約－条約改訂の方向〔高野雄一〕　六－一二
アメリカ世界政策と極東戦略－その課題と展開点〔佐伯喜一〕　一三－二〇
後進国開発理論の反省〔板垣与一〕　二一－二八
外交随想　豪州三週間〔松方三郎〕　二九－三一
外交随想　素人外交の役割〔道面豊信〕　三一－三二
外交随想　不思議な国〔松本滝蔵〕　三三－三三
ロンドン・レター　人種問題解決への道〔ＸＹＺ〕　三四－三九
ワシントン・レター　中間選挙近づく〔ＡＢＣ〕　四〇－四三
特集　経済外交の課題
　通商政策と外交〔牛場信彦〕　四四－四九
　東南ア経済協力の諸問題〔栗本弘〕　五〇－五五
　賠償の進捗とその効果－どのように支払うべきか〔吉田稔〕　五六－六〇
　海外投資の現況と問題点－延払輸出と円クレジット計画の細目〔大井賀津夫〕　六一－六三
　鉄鋼業の海外活動－経済協力の現況と問題点〔門平謙三〕　六四－六六
　造船業の海外建設－経済協力の現況と問題点〔倉本作二〕　六七－六九
世界のうごき　台湾海峡に波再び高し・中国代表権問題うごく・第五共和制のジレンマ・

B円はなぜ追放されたか　七〇－七三
国内のうごき　試煉に立つ岸藤山外交・スタート台の日米問題・台湾海峡に結局静観か　七四－七五
外交官への道標　外交官試験を目指す人のために－試験委員と受験細目　七六－七七
現実主義の破綻－日本の国連外交〔戸川猪佐武〕　七八－八一
海外論調　八二－八五
書評　ジェームス・M・ギアビン『宇宙時代の戦争と平和』　八六－八七
書評　米国務省『未開発諸国に対する中ソの経済進出』　八八－八九
外交記録集　通商に関する日本国とニュー・ジーランドとの間の協定　九〇－九三
外交日誌　九四－九五
読者への窓　九六－九六

第九五七号　一九五八年一二月号

巻頭言　改訂交渉の前提〔武内文彬〕　一－一
日本の選択条項受諾－国際司法裁判所の強制管轄権受諾の宣言と、その意義〔田岡良一〕　二－七
沖縄の法的地位－日米安保条約改訂に関連して〔杉山茂雄〕　八－一三
アメリカ対日政策の現段階〔三好修〕　一四－二〇
フォーリン・アフェアーズ一九五八年一〇月号紹介　二一－二一
ロンドン・レター　第五共和制の前途〔XYZ〕　二二－二七
ワシントン・レター　台湾問題と民主党〔ABC〕　二八－三一

座談会　財界人の語る日本経済外交の方向〔杉道助・佐藤喜一郎・新関八洲太郎・丹羽周夫〕　三二－三九
特集　日米安保条約の改訂
集団安全保障と日米安保条約〔田中直吉〕　四〇－四九
現行安保条約の性格〔西村熊雄〕　五〇－五七
検討・改訂交渉の問題点〔島田巽・佐倉潤吾・愛川重義〕　五八－六三
改訂の条件とその意義〔桜内義雄〕　六四－六八
条約改訂と社会党の立場－解消こそ日本の安全保障の道〔岡田宗司〕　六九－七二
書評　角田順『ボールドウィン・チエンバリンとヒトラー』〔大畑篤四郎〕　七三－七三
外交官への道標　試験勉強の体験から－やりにくい外交史と経済学の準備　七四－七五
本番に立つ藤山外交－その理念と期待〔関口松太郎〕　七六－七九
世界のうごき　米華会談のダレス路線・アジアに軍事革命あい次ぐ・
阻みがたい核実験競争再現・ＩＭＦと世銀が増資を決定　八〇－八三
国内のうごき　安保条約交渉ひそかに進捗・社会党は解消論で対決する　八四－八五
海外論調　八六－八九
条約集　対米相互防衛条約集　九〇－九六
外交日誌　九七－九八

第九五八号　一九五九年一月号

巻頭言　新春に想う〔武内文彬〕　一－一

ロンドン・レター 東欧で思うこと〔ＸＹＺ〕 二―七
ワシントン・レター アメリカ議会に新風〔ＡＢＣ〕 八―一一
二大政党制の反省―政局の根源にあるもの〔吉村正〕 一二―一六
モスクワだより―本ものになった〝自由化〟〔ＰＱＲ〕 一七―一九
一九五九年の世界―三つの焦点
ダレス外交と中間選挙―アメリカ・一九五九年の新課題〔岩立一郎〕 二〇―二五
ドゴールが導いた転換―フランスとヨーロッパ〔福永英二〕 三〇―三七
経済競争の本格的な展開―ソ連フルシチョフ計画の全容〔北見新〕 四一―四八
香港だより―風評高い国共合作〔天地人〕 二六―二九
北京だより―古都を埋める建設風景〔水沢澄夫〕 三八―四〇
アンケート 日本外交の基調
〔工藤昭四郎・勝間田清一・内山完造・岡崎勝男・奥村綱雄・船田中・北村徳太郎〕 四九―四九
パリだより―政治に取残された市民〔松尾邦之助〕 五〇―五一
軍縮交渉と日本の立場―その出発点となる核実験の停止〔北原秀雄〕 五二―五九
対談 新年を迎える自立外交の課題〔藤山愛一郎・細川隆元〕 六〇―六六
書評 リチャード・Ｐ・ステビンズ『米国と国際情勢』、
アメリカ外交協会『東と西の谷間』 六七―六七
外交随想 東のない西はない〔内山完造〕 六八―六九
外交随想 モスクワからプラーグ〔川島豊秋〕 六九―七一

外交随想　フイリッピンの旅〔宇都宮徳馬〕　七一－七三
経済外交の窓　日ソ第二次協定きまる　七四－七五
海外論調
外交官への道標　外交史の勉強の仕方－その参考書紹介と実際に関連して　七六－七九
世界のうごき　アイクの声望衰える・東独の承認を強制か・技術的討議に行詰り・野心的なソ連の挑戦　八〇－八一
国内のうごき　安保条約改訂足踏み・交渉の大枠出そろう　八二－八五
内政の渦に入った安保改訂－藤山構想の行方〔大和三郎〕　八六－八七
外交記録集　陳毅中国外相声明およびグロムイコソ連外相覚書と、外務省談話　八八－九〇
外交日誌　九一－九六
九七－一〇〇

第九五九号　一九五九年二月号

巻頭言　跳躍の時代〔武内文彬〕　一－三
平和共存の法理論的検討－ソヴェト国際法理論よりみた一視角〔一又正雄〕　四－八
一九五九年の世界と日本－東西両陣営の関係〔猪木正道〕　九－一三
ロンドン・レター　新たな課題に向う欧州〔ＸＹＺ〕　一四－一九
ワシントン・レター　アメリカすでに不況を克服〔ＡＢＣ〕　二〇－二三
世界外交を担う人々　ジョン・フォスター・ダレス〔中村正吾〕　二四－二五
特集　世界経済の展望

世界の経済における後進国－その発展の条件〔大来佐武郎〕　二六－三一
欧州経済と自由貿易地域案－計画の挫折とその波紋〔河合俊三〕　三二－三七
アメリカ経済の社会的側面－労働組合運動の性格と位地〔松尾均〕　四二－四七
躍進する中国の経済建設－一九五八年から五九年実績と目標〔山田明〕　四八－五三
香港だより　毛沢東の辞任と、その背景－うわさの真実味〔天地人〕　三八－四〇
パリだより　ド・ゴールの勝利〔松尾邦之助〕　四七－四七
外交随想　政治の〝貧困〟〔木村孫八郎〕　四一－四一
経済外交の窓　成果あげた貿易使節団　五四－五五
ソ連の安全保障構想と政策－その背景と推移〔中村実〕　五六－六三
外交官への道標　私の受験準備（投稿）－着手から仕上げまで〔大村元〕　六四－六五
海外論調　六六－六九
世界のうごき　毛沢東が国家主席退く・欧州小頂上会議を計画・アフリカに新しい団結・A・A経済会議の成果　七〇－七三
国内のうごき　安保改訂低姿勢で越年・社会党でも内部抗争か　七四－七五
「権道」と派閥－自民党の内紛〔大和三郎〕　七六－八〇
外交随想　飛行機の旅から〔山本米治〕　八一－八一
書評　ドルー・ピアソン、ジャック・アンダーソン『二流国家アメリカ』　八二－八三
書評　中華人民共和国国家統計局工業統計司編
『わが国鉄鋼・電力・石炭・機械・紡績・製紙工業の今昔』　八三－八五

外交記録集　日ソ間の商品相互取引表議定書、日本とハイティ共和国通商協定　八六－八九
日本外交の歩み　昭和三三年下半期〔編集部〕　九〇－九三
外交日誌　九四－九六

第九六〇号　一九五九年三月号

巻頭言　一－一
安保条約改訂の方向と条件－新時代の世界平和と安全のために〔田尻愛義〕　二－七
ドイツ問題から東西話合へ　フルシチョフがつけたベルリンへの火と新しい雪どけ〔篠原武英〕　八－一四
ド・ゴールとアルジェリア－仏新政権とながびく北アフリカ問題の波紋〔福永英二〕　一五－一八
超高空の法理論－人工衛星打上げにともなう法律問題〔城戸正彦〕　一九－二七
経済外交の窓　波紋収まらぬ交換性問題　二八－二九
ワシントン・レター　年頭教書に動く米議会〔ＡＢＣ〕　三〇－三三
座談会　通商使節団長、経済特使の語る外交・通商・経済
〔稲垣平太郎・伊藤忠兵衛・永野重雄〕　三四－四二
本格市場への転換〔佐々部晩穂〕　四三－四三
特集　日本外交の環境
アジア外交の当面する課題－その現状と展望〔宮崎繁樹〕　四四－五〇
東南ア経済協力の展開　経済協力にたいする目的論的反省と若干の示唆〔広長敬太郎〕　五一－五五
中国政策にみる米国の立場〔三好修〕　五六－六五

外交随想　米ソ抗争の尖端「ベルリン」〔山本米治〕　六六－六七
外交随想　名なしの年賀状〔福田千里〕　六七－六七
外交官への道標　在外研修の思い出－見聞をひろめ、交友の喜び　六八－六九
海外論調　七〇－七三
中国革命の前夜（其の一）民族英雄の没落　七四－七五
世界のうごき　ミコヤンの訪米・米一般教書を発表・欧州の通貨界に変革・予算教書と経済報告　七六－七九
国内のうごき　再開国会はじまる・三二〇と一六六のうらおもて　八〇－八一
外交と内政の間〔大和三郎〕　八二－八三
書評　S・アドラー『中国の経済』　八四－八五
書評　ウィリアム・レデラー、ユウジーン・バーディック『醜いアメリカ人』　八六－八七
外交記録集　西欧諸国通貨の交換性回復について〔外務省経済局〕　八八－九四
外交日誌　九五－九六

第九六一号　一九五九年四月号

巻頭言　激動下の日本の進路〔武内文彬〕　一－一
特集　新らたなる日米関係の確立
安全保障の概念と日米安保条約〔横田喜三郎〕　二－一三
経済的にみた日米の関係〔稲葉秀三〕　二〇－三〇

〝蜜月〟を過ぎた日米関係　東京－ワシントン・ハイライト〔宮沢喜一〕　三六－四一
マッカーサー駐日米大使にきく　日米関係の新たな眺望
〔マッカーサー駐日米大使・岩立一郎〕　一四－一九
アメリカ留学の手引き　貴君を待ついくつかのチャネル〔林容吉〕　三一－三五
海外論調
ワシントン・レター　ソ連共産党大会とアメリカの論調〔ＡＢＣ〕　四二－四五
転換期に立つＮＡＴＯ－ティーン・エイジに入ったＮＡＴＯの危機と問題点〔内山正熊〕　四六－四九
ソ連七ヵ年計画の内外的意義－第二一回共産党大会をめぐつて〔清川勇吉〕　五〇－五六
最近の中南米・その政治と経済－その新しい動向と表情〔近藤四郎〕　五七－六三
経済外交の窓　新段階に入る日中関係の調整　六四－六九
世界のうごき　ダレス長官と共に入院した米外交・マクミラン訪ソの意味するもの・
　キプロス、ついに独立を達成・米及び西欧経済の動き　七〇－七一
動きかねる日中修交〔大和三郎〕　七二－七五
中国〝革命〟の前夜（その二）民族資本家のなげき〔竹田精太郎〕　七六－七七
アラスカ今昔物語　七八－七九
書評　米国政治社会科学学会『現代中国および中国人』　八〇－八三
日米関係研究書紹介〔溝口道郎〕　八四－八五
外交記録集　所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための
　日本国とノールウェーとの間の条約　八六－八八
　　八九－九四

外交日誌　九五－九六

第九六二号　一九五九年五月号

巻頭言　日中国交回復へ〔武内文彬〕　一－一
今日における中立主義の意義〔中村哲〕　二－六
米ソの間の日本外交〔明峰嘉夫〕　七－一一
国際政治展望　外相会議から首脳会談へ　マクミランの開いた道　一二－一三
国際経済展望　平坦でない米対外援助の増加　一四－一五
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（一）領海の「幅」と「基線」〔横田喜三郎〕　一六－二二
アメリカ対中国政策の転換（二）〔三好修〕　二三－三三
対談　フェドレンコ駐日ソ連大使語る　日本の永世中立を希望〔岩立一郎〕　三四－三九
特集　世界外交におけるイギリス
　国際政治とイギリスの立場－英国外交に学ぶもの〔西春彦〕　四〇－四七
　マクミラン外交の描くもの－冷戦の氷は解けるか・首脳会談のきすう〔奥畑稔〕　五二－五七
　英連邦諸国と日本－貿易と開発協力の現況〔伊東敬〕　六四－六九
北京レター　政治意識みなぎる七億　新中国みてある記〔世多礼〕　四八－五一
海外論調　五八－六一
経済外交の窓　南ベトナム賠償からの教訓　六二－六三
ワシントン・レター　アメリカの暗い谷間　七〇－七三

英国外交の研究書紹介〔大島鋭男〕　七四－七六
日本経済の国際環境シリーズ（一）日本綿業の将来性〔村山高〕　七七－八三
中国〝革命〟の前夜（その三）官僚資本の膨脹〔竹田精太郎〕　八四－八五
〝政治季節〟の環境〔大和三郎〕　八六－八七
外交記録集　日本とユーゴースラヴィア連邦人民共和国との間の通商航海条約・日本国とカンボディアとの経済および技術協力協定　八八－九三
外交日誌　九四－九六

第九六三号　一九五九年六月号

巻頭言　劉少奇政府成立と日本の外交路線〔武内文彬〕　一－一
特集　東西交渉の新しい基調
戦後外交と東西交渉の考察－再現した外相会議から首脳会談の道〔入江啓四郎〕　二－八
ベルリン・ヨーロッパ・東西交渉－東西の狙う力点〔寺沢一〕　九－一四
外相会議におけるドイツ問題－外相会議とその成否〔木本三郎〕　二四－三一
ドイツ問題の軍事的背景－ベルリン問題の軍事的背景〔佐伯喜一〕　三二－四〇
欧州から東南アへ－ナショナリズム・共産主義・東南ア経済〔森恭三〕　一五－一九
国際政治展望　〝人民公社〟の政治的果実　二〇－二一
国際経済展望　躍進を続ける中国の経済建設　二二－二三
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（二）湾と無害通航〔中村洸〕　四一－四七

転期を迎える米国務省〔三好修〕　四八－五三
カイロ・レター　エジプト行顚末記（一）〔水沢澄夫〕　五四－五七
対談　協力と売込み　クルップ氏が日本を語る〔アルフリート・クルップ、岩立一郎〕　五八－六一
ワシントン・レター　アメリカ対外援助の舞台と運命〔ＡＢＣ〕　六二－六五
経済外交の窓　南米市場と輸出振興体制　六六－六七
海外論調　六八－七一
外務省を志ざす人のために　三グループの試験で採用〔内田藤雄〕　七二－七四
日本経済の国際環境シリーズ（二）輸出阻む硫安工業の現況〔海野秋津〕　七六－八二
日ソ中立条約をめぐる松岡外交〔遠山左千夫〕　八三－八七
書評　Ｃ・Ｌ・ザルツバーガー『米国外交のどこが悪いか』　八八－八九
外交記録集　ＩＡＥＡよりの天然ウランの受入協定　九一－九三
外交日誌　九四－九六

第九六四号　一九五九年七月号

巻頭言　ダレス長官の死と米－日独外交路線〔武内文彬〕　一－一
ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の経済政策
－共同市場運営における超国家的政策の展開〔佐藤和男〕　二－一〇
東西外相会議から首脳会談へ－その動きとその方向〔小川恒〕　一一－一六
座談会　日本綿業からみた世界経済と通商・外交〔阿部孝次郎・原吉平・鈴木重光・武藤絲治〕　一七－二三

国際政治展望　〝現実〟が導く転換－一九五九年に託すもの　二四－二五
国際経済展望　勢を盛り返した金流出－米の国際収支悪化が招く悩み　二六－二七
ダレス・その足跡（写真ページ）　二八－二九
特集　日本外交の現実
北鮮自由帰還問題の問題点と経緯〔鈴木貢〕　三〇－三三
ヴィエトナム賠償協定妥結と今後の問題〔吉岡信夫〕　三三－三六
国際捕鯨東京会談の意義と問題性〔唐木桂一郎〕　三七－三九
不満を残した日ソ漁業交渉の実際〔都築汎〕　四〇－四三
世界外交群像シリーズ（二）指導的地位をめざす中国外交のカラクリ〔浜野洋〕　四四－四九
ニューデリー・レター　インドに思うこと－未開拓なその研究と問題点〔植田捷雄〕　五〇－五四
外務省を志ざす人のために　上級試験の国際法について〔田岡良一〕　五五－五七
近代外交史研究書紹介－外交官試験準備のために〔大畑篤四郎〕　五八－六一
カイロ・レター　エジプト行顚末記（二）〔水沢澄夫〕　六二－六五
経済外交の窓　基本対策望まれる漁業問題　六六－六七
ワシントン・レター　大統領選挙を繞る動向〔ＡＢＣ〕　六八－七一
日本経済の国際環境シリーズ（三）国際的にみた日本鉄鋼業の問題点〔門平謙三〕　七二－七六
イギリス鉄鋼業の現況－その国際的地位〔大島重忠〕　七七－八三
外交記録集　日本国とヴィエトナム共和国との間の賠償協定・
日本国とヴィエトナム共和国との借款に関する協定および交換公文・

北西太平洋日ソ漁業委員会第三回会議の議事録　八四－九四
外交日誌　九五－九六

第九六五号　一九五九年八月号

グラビア　日本を訪れた世界の顔・一九五八年　一－一
巻頭言　試練に立つ岸外交〔武内文彬〕
特集　日本外交の進路
　日本外交の理念と現実〔林茂〕　二－六
　日本の中近東外交とその課題〔大平善梧〕　七－一二
　日本の中国外交－「二つの中国」に直面して・その課題〔植田捷雄〕　一三－一九
国際政治展望　懸案は首脳会議へもちこし　二〇－二一
国際経済展望　地域的な経済競争を現出　二二－二三
敗戦前夜の日本外交〔日下晋〕　二四－三七
世界外交群像シリーズ（三）外交と内交－変転する戦後日本外交〔戸川猪佐武〕　三八－四三
近代外交史研究書紹介〔大畑篤四郎〕　四四－四七
戦後日本外交の歩み〔田村浩〕　四八－五七
世界政治家・あ・ら・かると　政治家の趣味・気位の高いドゴール・ストロースの嘆き　五八－五九
四つのメモ　ケララ州・カストロ・バークナー報告・パレ・デ・ナシオン　六〇－六〇
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（三）接続水域と継続追跡権〔前原光雄〕　六一－六七

中国〝革命〟の前夜（その四）悪性インフレの昂進〔竹田精太郎〕　六八－六九
外相会議が描く方向〔帆足計〕　七〇－七四
日本経済の国際環境シリーズ（四）日本化繊工業の将来と問題点〔山口利吉〕　七五－七九
安全保障条約図表〔外務省条約局調査室〕　八〇－八九
外交資料集　ロバートソン米国務次官補一九五九年六月一六日全米記者クラブ演説「極東情勢の現在と将来」全文　九〇－九四
外交記録集　航空業務に関する日本国とベルギーとの間の協定　九五－九七
外交時報復刊号総索引　九八－一〇一
外交日誌　一〇二－一〇四

第九六六号　一九五九年九月号

巻頭言　万年一二歳の日本〔武内文彬〕　一－一
国際政治展望　東西対立の巾狭まる　二－三
国際経済展望　波乱を抱く？世界経済の動向　四－五
世界経済と日本経済外交の方向〔山本登〕　六－一一
国際経済機構の理念と機能〔佐藤和男〕　一二－一九
特集　現地にみる日本貿易の実際
はじめに〔長満郁郎〕　二〇－二〇
特色ある市場条件－アメリカ北西部〔坂牧弘康〕　二〇－二二

輸出方式を向上－アメリカ太平洋岸〔須川輝雄〕　二二－二四
片貿易の克服へ－中米・メキシコ〔村松太郎〕　二四－二六
目ざましい市場の生長－ブラジル〔藪真鉄〕　二六－二八
輸入制限の圧力増す－欧州市場〔大庭定男〕　二八－三〇
必要な政治的背景－エジプトとアラブ諸国〔田貝正人〕　三〇－三二
重要な相互理解を－台湾〔小玉源次〕　三二－三三
大いなる錯綜－ソ連・モスコウ〔ＸＹＺ〕　三三－三五
座談会　外貨獲得のホープ　日本化学繊維の問題点と将来
〔大屋晋三・賀集益蔵・田代茂樹・森長英〕　三六－四七
あ・ら・かると　女王と大統領・腕をあげたアイク・博覧会競争　四八－四九
現行通商貿易協定図・解説〔外務省条約局調査室〕　五〇－五八
記事資料　経済協力の現状について（一九五九年六月二二日）〔通商産業省通商局経済協力課〕　六〇－七一
グラビア　スイスの山々　六五－六七
記事資料　第三回アジア経済担当官会議の結論（一九五九年六月二三～二五日）〔外務省〕　七二－七三
主要産業と外貨依存度　石油〔東淳〕　七四－七八
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（四）大陸棚と国際法〔入江啓四郎〕　七九－八五
インドネシヤの経済文化〔守安新二郎〕　八六－九一
書籍紹介　経済外交研究会編『欧州経済統合の動き』　九二－九三
協会だより　九四－九六

読者の頁　九七－九七
外交日誌　九八－一〇〇

第九六七号　一九五九年一〇月号

巻頭言　国際「次元」は変った〔武内文彬〕　一－一
国際政治展望　アイゼンハワーの〝西欧の旅〟　二－三
国際経済展望　東西緊張の緩和に動き出したか　四－五
何が真に安保改訂論争を正当化するか〔蠟山政道〕　六－一二
新安全保障条約の検討〔田中直吉〕　一三－二三
宇宙空間と国際法〔池田文雄〕　二四－三一
世界外交群像シリーズ（四）英国編　威厳失なわぬ伝統と理想〔野波四郎〕　三二－三七
あ・ら・かると　選挙と外交・カストロとカセム　三八－三九
我々の選択は原爆死か世界法かである〔ライナス・ポーリング〕　四〇－四七
資料　日本国政府とパラグアイ共和国政府との間の移住協定の署名
　および船舶借款に関する書簡交換について　四八－四八
資料　パラグアイの一般事情　四八－五〇
資料　パラグアイ移住事情について　五〇－五二
第二世界銀行（ＩＤＡ）の創設〔大和三郎〕　五三－五五
ウイーン会議と国際綿連について〔田和安夫〕　五六－五八

朝鮮人帰国問題の実相〔帆足計〕　五九－六四
グラビア　オーストラリアの自然　六五－六七
ことばのはなし　サハラさばく・ボーレン駐比大使・国連本部・ヘンリー・キャボット・ロッジ　六九－六九
日本ブームと工芸品の輸出〔山本正三〕　七〇－七七
中国〝革命〟の前夜（その五）知識分子と学生の運動〔竹田精太郎〕　七八－七九
主要産業の輸入依存度　鉄鋼〔東淳〕　八〇－八五
外交記録集　日本国政府とパラグアイ共和国政府との間の移住協定　八六－八七
協会だより　八八－八九
外交日誌　九〇－九二

第九六八号　一九五九年一一月号

巻頭言　一－一
国際政治展望　恒久平和へ重い扉開く　二－三
国際経済展望　新時代が招いた波紋　四－五
新時代への提言〔小幡操〕　六－一二
四社外報部長座談会　平和共存への胎動〔鈴川勇・小松武雄・渡辺善一郎・清水俊雄〕　一三－二三
随想　過当競争〔原吉平〕　二四－二四
随想　西独政府賓客とガリオア資金〔青木得三〕　二五－二七

中国は何を望み何を叫ぶか〔鈴木一雄〕　二八－三四
日中修交の新しい踏台－北京から帰つて〔宇都宮徳馬〕　三五－三九
あ・ら・かると　フルシチョフ格言集・兄弟政治家・米ソの青少年　四〇－四一
平和共存理論とソヴエトの外交－首脳会談に期待するもの〔畑中政春〕　四二－四七
大使館だより
　ラオスと日本〔伊部時代〕　四八－四八
　ヴィエトナムの表情〔久保田貫一郎〕　四九－四九
訪ソ米州知事マイナー氏　フルシチョフ首相の訪米とソ連の現状を語る〔川崎秀二〕　五〇－五一
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（五）公海〔高野雄一〕　五二－五九
外交資料集　ＧＡＴＴ第一五回東京総会について　六〇－六三
四つのメモ　ラオス小委員会・ベラウンデ・国内管轄権・経済社会理事会　六四－六四
グラビア　外交はほほ笑む　六五－六七
協会だより　六九－七一
国交樹立状況一覧表・在外公館設置状況一覧表〔外務大臣官房総務参事官室〕　七二－八一
外交資料集　ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア各国との国交回復について、
　マリキナ河多目的計画および電気通信施設拡張改善計画のための信用供与に関する
　フイリピン政府との書簡交換について　八二－八七
外交記録集　日本国とハンガリー・ルーマニア・ブルガリアとの間の外交関係回復に関する
　交換公文　八八－八九

外交日誌　九〇－九二

第九六九号　一九五九年一二月号

巻頭言　米ソ同盟－世界政府－戦争の廃止〔武内文彬〕　一－一
「極東の安全」は「日本の安全」となりうるか－〝新安保条約草案〟を読んで〔田尻愛義〕　二－八
ソ連外交の伝統と平和政策〔尾上正男〕　九－一五
共産圏研究（一）ソ連　競争的共存の可能性－ソ連の七カ年計画の目標と背景〔小林茂三〕　一六－二〇
共産圏研究（二）東欧　経済統合と東欧諸国－コメコンからみた動向〔斉藤正〕　二一－二六
共産圏研究（三）中国　経済建設と人民公社－中国経済への一視角〔江副敏生〕　二七－三三
鉄と竹の幕の彼方に－両雄並び立ちうるか　中ソ関係の分析〔日下晋〕　三四－四五
チベットに立つ風－裏からみた中印紛争〔大田誠〕　四六－五〇
四つのメモ　第二世銀、タフト・ハートレー法、クリシュナ・メノン、アナイリン・ベバン　五一－五一
国際政治展望　西側首脳会談ゆきなやむ　五二－五三
国際経済展望　曲り角に立つ世界経済　五四－五五
軍備全廃論こそ「平和への大道」－フルシチョフ提案を評す〔帆足計〕　五六－六〇
日本の賠償－その現状と問題点〔里上忠政〕　六一－六九
グラビア　ヨーロッパの旅から　六五－六七
欧州綿業の動向と対策－国際綿連ウィーン会議に参加して〔村山高〕　七〇－七五
あ・ら・かると　宇宙ロケットと月賦販売・ソ連と中共の間柄・なぞのドゴール大統領　七六－七七

主要産業の輸入依存度（三）電力〔東淳〕　七八－八二
外交資料集 世銀総会においてアメリカ代表総務の提出した「国際開発協会」決議案、世銀総会におけるA・D・ジロン国務次官補の演説要旨、同ブラック世銀総裁の演説要旨　八三－八六
協会だより　八七－八九
外交日誌　九〇－九二

第九七〇号　一九六〇年一月号

巻頭言〝六〇年代〟への期待〔武内文彬〕　五－一〇
一九六〇年 世界経済の方向と課題〔堀江薫雄〕　一一－一七
東西交渉をめぐる諸問題〔新関欽哉〕　一八－二四
国際法からみたベトナム賠償〔横田喜三郎〕　二五－三五
安保改定問題と婦人界〔西清子〕　三六－三九
座談会 石油事業の海外進出－アラビアとインドネシア〔三村起一・山下太郎〕　四〇－五一
解説 コンロン報告について　五二－五五
「燃えだした中国論」への反響と提言－コンロン報告を読んで〔植田捷雄〕　五五－六五
国際政治展望－滲みとおる雪解け水　六六－六七
国際経済展望－本格化したガット総会審議　六八－六九
世界外交群像・フランス編－大戦の傷こんから立ちあがるケー・ドルセー〔福永英二〕　七〇－七五
本誌寄稿家の著作紹介 森恭三・戸川猪佐武・小幡操　七六－七七

書評　大鷹正次郎『第二次世界大戦原因論』〔岩村一郎〕　七八－七九
韓国の政情と大統領選挙〔鈴木貢〕　八〇－八二
主要産業の輸入依存度（四）羊毛〔東淳〕　八三－八七
協会だより　八八－八九
外交日誌　九〇－九一

第九七一号　一九六〇年二月号

巻頭言　本年の国際的焦点　経済的「競争的共存」へ〔武内文彬〕　五－五
一九六〇年　世界政治の方向と課題－緊張緩和をめぐって〔角田順〕　六－一三
東西交渉とヨーロッパ－パリからパリへ〔三好修〕　一四－二〇
エル・チャミザール見聞記－アメリカとメキシコの国境紛争より〔入江啓四郎〕　二一－二六
南極条約をめぐって〔池田文雄〕　二七－三二
アメリカの国際収支の悪化要因とその改善策〔大田輝夫〕　三三－三八
安保改訂後の外交課題－日中関係の新発足〔田尻愛義〕　三九－四二
改訂交渉をかえりみて－経緯が綴る安保改訂〔山野明夫〕　四三－四七
国際政治展望－ニクソン独走に入る　四八－四九
国際経済展望－解決のメド立たぬ米鉄鋼スト　五〇－五一
世界外交群像シリーズ（六）ソ連邦－転換の姿勢あらわす党外交〔大川透〕　五二－五七
国慶節より帰って－建国十年の新中国　見て、感じた意見と提言〔宮崎世民〕　五八－六三

あ・ら・かると　アイクとネール・回想録ばやり・人口問題　六四－六五
滞英雑感　運命的問題のみせる苦悩〔斎藤鎮男〕　六六－六八
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（六）公海漁業〔寺沢一〕　六九－七五
四つのメモ　バンデンバーク決議・パナマ運河・マカリオス大主教・マリ連邦　七六－七六
主要産業の輸入依存度（五）機械工業〔東淳〕　七七－八一
外交記録集　南極条約　八二－八七
協会だより　八八－八九
外交日誌　九〇－九一

第九七二号　一九六〇年三月号

巻頭言　新日米安保条約「本番」はこれからだ〔武内文彬〕　五－五
戦争放棄の限界－砂川判決を中心として〔横田喜三郎〕　六－一六
新条約の解釈をめぐって－安保改訂にたいする私の立場〔田岡良一〕　一七－二三
新条約と今後の日米関係〔中屋健式〕　二四－二八
アジア・アフリカ問題の現状と方向－焦点〝アフリカ〟の動向を主軸として〔百々巳之助〕　二九－三五
民族運動とアラブ世界の動き－ナセル・カセムの対立について〔甲斐静馬〕　三六－四二
平和共存とインド外交〔大形孝平〕　四三－四七
中国の東南アジア華僑政策〔須山卓〕　四八－五三
新局面に立つアルジェリア－F・L・N、コロン、本国の鼎立から〔福永英二〕　五四－五八

ナセル主義の一解釈〔ウィーラード・レンジ〕　五九－六三
あ・ら・かると　一九六〇年のうらない・イーデン回顧録・一九五〇年代　六四－六五
西ドイツ宰相アデナウアー（その一）青少年時代〔鹿島守之助〕　六六－七三
読者の窓　七三－七三
国際政治展望－戦争の抑止に主導権　七四－七五
国際経済展望－東西経済競争の問題点　七六－七七
主要産業の輸入依存度（六）化学繊維〔東淳〕　七八－八三
四つのメモ　カメルーン・武器貸与法・アルジェリア・サー・オリバー・フランクス　八四－八四
協会だより　八五－八七
外交資料集　ソ連覚え書き全文（一九六〇年一月二七日）　八八－八九

第九七三号　一九六〇年四月号

巻頭言　米ソの国際的命運－本年が山場か〔武内文彬〕　五－五
国際政治展望－核兵器禁止の戸を押すか　六－七
国際経済展望－しのぎを削る東西の後進国援助　八－九
新日ソ貿易三カ年協定をめぐって〔神代喜雄〕　一〇－一七
貿易自由化と繊維産業〔村山高〕　一八－二一
友好善隣の証のために－日中関係打開に関する課題と対策〔山本熊一〕　二二－二七
安保改訂論争の新角度　渦中の人にきく

中立化こそ危険な方向〔賀屋興宣〕　二八－三三
段階的解消の立場から〔曾禰益〕　三四－三七
平和憲法を破壊する者〔松本七郎〕　三七－四〇
国会の論争をこうみる〔岡田任雄〕　四〇－四二
新安保条約・関係文書の検討〔田中直吉〕　四三－六〇
国際法ゼミナー　国際河川・国際運河とセント・ローレンス五大湖水路〔高梨正夫〕　六一－六七
あ・ら・かると　三選是非論・アジュベイとリップマン・チェスマン　六八－六九
書籍紹介　神川彦松『日本外交の再出発』〔田中直吉〕　七〇－七一
西ドイツ宰相アデナウアー（その二）ケルン市長〔鹿島守之助〕　七二－七七
国際連合の印象〔佐藤和男〕　七八－八四
四つのメモ　ポラリス・フランコ総統・十カ国軍縮委員会・中南米共同市場　八五－八五
条約集　日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約および付属文書（案）　八六－一〇四
条約集　日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約（一九五一年）、
　吉田アチソン交換公文、日米行政協定　一〇五－一一九
協会だより　一二〇－一二一
外交日誌　一二二－一二三

第九七四号　一九六〇年五月号

巻頭言　後進地域援助と日本－吉田元首相の渡米に期待〔武内文彬〕　五－五

国際政治展望－核実験禁止条約、合意に近づく　六－七
国際経済展望－波及する経済ブロック化の波　八－九
貿易の自由化と日本経済－その国民経済に与える栄養〔紅林茂夫〕　一〇－一五
為替・貿易の自由化について－自由化は何故必要か〔渡辺誠〕　一六－二三
貿易の自由化と関税〔吉田尚〕　二四－二九
日中外交のありかた－友好親善の「望」はあるか〔田尻愛義〕　三〇－三六
後進国援助競争の課題〔牛場信彦〕　三七－四一
あ・ら・かると　アジアの民主主義・キューバとアメリカ・二つのパス　四二－四三
西ドイツ宰相アデナウアー（その三）大戦直後〔鹿島守之助〕　四四－五一
国際法ゼミナー　新しい国際法の諸問題　南極の国際法（一）〔横田喜三郎〕　五二－五八
極東の範囲についての一考察〔多田実〕　五九－六三
三五年度の外交予算〔森田佑一〕　六四－七〇
中共と東南アジア諸国との関係〔佐山滋雄〕　七一－七八
主要産業の輸入依存度　化学肥料工業〔東淳〕　七九－八三
投稿　極東における日本の責任〔田村善之助〕　八四－八九
外交日誌　九〇－九一

第九七五号　一九六〇年六月号

巻頭言　日米修好百年に想う〔武内文彬〕　五－五

日米国交百年の歩み〔鹿島守之助〕　六－一二
日米経済交流の新段階〔石坂泰三〕　一三－一五
日米修好通商百年記念号によせて〔藤山愛一郎〕　一六－一六
日米修好通商百年メッセージ〔マッカーサー駐日米大使〕　一七－一七
太平洋戦争の教訓－ある回想〔野村吉三郎〕　一八－二九
大君の使節〔金井圓〕　三〇－三四
苦難から共栄へ－日米百年物語〔四至本八郎〕　三五－四一
滞米回想　戦争玩具と米人〔松岡洋子〕　四二－四三
滞米回想　彼が航空時代のとき〔岡崎勝男〕　四三－四四
滞米回想　健全な民主国家〔賀集益蔵〕　四四－四五
滞米回想　大いなる友情〔小松隆〕　四五－四六
日本雑感 The International Language〔Nathan Polowetzky〕　四七－四七
日米交流と留学生〔坂西志保〕　四八－五一
新刊紹介『世界情勢と米国　一九五八年』〔田中直吉〕　五二－五二
写真ページ　ワシントンの日本人　五三－五五
四つのメモ　ＩＤＯ・国連特別総会・フィリバスター・諸国民友好大学　五七－五七
国際政治展望－頂上会談へ懸案出そろう　五八－五九
国際経済展望－ＯＥＥＣの改組新機構案成る　六〇－六一
日本の外交政策と中立主義〔Ｉ・Ｉ・モーリス〕　六二－六七

あ・ら・かると　警官とデモ隊・共通の言葉　六八－六九
日米外交百年史年表　七〇－八三
協会だより　八四－八五
外交日誌　八六－八七

第九七六号　一九六〇年七月号

巻頭言　世界は「火」を噴き始めた〔武内文彬〕　五－五
国際政治展望－流された東西首脳会談　六－七
国際経済展望－迂余曲折する欧州経済統合　八－九
東西関係の新時点－パリー会談流会の意味するもの〔角田順〕　一〇－二〇
四つのメモ　ケネディー・CIA・ミコヤン・空中査察　二一－二一
米国外交のゆくえ－注目される民主党の外交綱領〔三好修〕　二二－二九
特集　自由化とそのインパクト
国際的自由化の大勢－欧州は既に「共同市場化」へ〔織田定信〕　三〇－三一
国内措置のプログラム〔松尾泰一郎〕　三二－三七
産業界はどう対応するか〔阿部太郎〕　三八－四四
為替政策の新しい角度〔柴崎芳博〕　四五－五〇
外資法の改正へ新方向〔木上兵衛〕　五一－五六
戦後経済からの脱脚－貿易自由化と紡績産業〔原吉平〕　五七－六二

過渡的処置に期待－貿易自由化と化繊産業〔賀集益蔵〕　六三－六七
西ドイツ宰相アデナウアー（その四）ケルン市長時代の業績〔鹿島守之助〕　六八－七七
あ・ら・かると　偶数年と奇数年・忘れることと忘れないこと・にこにこ顔の政治家　七八－七九
国際法ゼミナー　新しい国際法の諸問題　南極の国際法（二）〔入江啓四郎〕　八〇－八六
新安保条約と国会〔戸川猪佐武〕　八七－九一
外交日誌　九二－九五

第九七七号　一九六〇年八月号

巻頭言　日米関係は何うなるか〔武内文彬〕　五－五
国際政治展望－U2型機の画く波紋　六－七
国際経済展望－世界景気の二つの流れ　八－九
特集　国際状勢の切点
韓国－新憲法後の行く方〔鈴木貢〕　一〇－一三
インドネシア－苦悶（ママ）する新民主々義〔有吉厳〕　一四－一八
ヴィエトナム－模索つづく不安と混迷〔坂本徳松〕　一九－二三
トルコ－政変に底流するもの〔甲斐静馬〕　二四－二八
新安保条約発効と今後の問題〔田畑茂二郎〕　二九－三五
東西交渉決裂後の世界の課題－激突する二つの力　その縮図日本〔牧内正男〕　三六－四一
西ドイツ宰相アデナウアー（その五）ラインランド分離運動とライン共和国〔鹿島守之助〕　四二－五一

国際連合と経済協力－後進国の経済開発に対する国際連合体制の貢献〔佐藤和男〕　五二－六五
国連警察軍は可能か〔岡本順一〕　六六－七二
四つのメモ　修正主義・モンゴメリー元帥・アイヒマン・スカイボルト　七三－七三
あ・ら・かると　クレムリン診断学・大統領候補指名大会・ひと月たって十年たって　七四－七五
パナマ運河の将来〔高梨正夫〕　七六－八三
復刊第二年総索引　八四－八七
書籍紹介　東亜経済研究会刊『新中国の機械工業』　八八－八八
外交日誌　八九－九一

第九七八号　一九六〇年九月号

巻頭言　騒然たる世界情勢と日本の新外交〔武内文彬〕　五－五
新段階を迎えた日米経済関係〔大来佐武郎〕　六－一四
Enchanted Foreigners〔Sthephen H. Green〕　一五－一五
日本経済への「新しい波」〔岩佐凱美・織田定信・瀬川美能留〕　一六－二一
米国の大統領選挙とその外交政綱〔鎌田与左衛門〕　二二－二五
米国の対日感情〔鈴木定夫〕　二六－二九
米国の中国政策〔日下晋〕　三〇－四二
四つのメモ　RB47・米州機構・リンドン・ジョンソン・ルムンバ首相　四三－四三
国際外交－冷戦へ紛争各地にあいつぐ　四四－四五

国際経済－難航を続ける各国の通商調整　四六－四七
西ドイツ宰相アデナウアー（その六）宰相候補に挙げらる〔鹿島守之助〕　四八－五七
あ・ら・かると　島（その一・二）・終戦一五年　五八－五九
対談　日本外交とアジアの実情〔那須浩・坂西志保〕　六〇－六七
外交要語解説　六八－六九
昭和外交史（一）幣原外交〔戸川猪佐武〕　七〇－七六
欧州酒の旅〔佐治敬三〕　七七－七九
外交記録集　日ソ三カ年貿易支払協定・日本国とカンボジアとの貿易取極・日本国とキューバ共和国との通商協定　八〇－八七
外交日誌　八九－九二

第九七九号　一九六〇年一〇月号

巻頭言　国連くさぐさ〔武内文彬〕　五－五
特集　戦後十五年の世界経済
戦後世界経済の鳥瞰－その構造政策と将来への展望〔赤松要〕　六－一三
米ソ経済競争と世界政治の基調〔石沢元晴〕　一四－二一
世界経済と国際連合〔佐藤和男〕　二二－二九
世界経済と国際経済機関－ＩＭＦとＧＡＴＴを中心として〔村野孝〕　三〇－三五
欧州経済共同体と欧州経済統合問題〔武内文彬〕　三六－四三

日本の世界経済政策〔山本登〕　四四－五〇
四つのメモ　ドミニカ・ワズワース・ユニオン・ミニエール・モロトフ　五一－五一
西ドイツ宰相アデナウアー（その七）ナチ暴力政治下におけるアデナウアー〔鹿島守之助〕　五二－六〇
国際政治・時の人　次期首相候補と目される　セルウイン・ロイド　六一－六一
あ・ら・かると　さまざまのドクトリン・国際公務員・百カ国になる国連加盟国　六二－六三
昭和外交史（二）影の外相・森恪〔戸川猪佐武〕　六四－七〇
新生〝民主韓国〟の課題　改革は成功したか〔村常男〕　七二－七八
書評　石沢元晴『米ソの経済競争』〔気賀健三〕　七九－七九
外交要語解説　八〇－八一
国際外交　八二－八三
国際経済　八四－八五
外交日誌　八七－九〇
コンゴ関係日誌　九一－九二

第九八〇号　一九六〇年一一月号

巻頭言　国連に新時代来る〔武内文彬〕　五－五
フルシチョフ外交路線の痙攣〔原子林二郎〕　六－一〇
資本取引の自由化について－ヨーロッパの国際交流をみて〔瀬川美能留〕　一一－一七
宇宙時代における軍事基地と核兵器〔伊藤皓文〕　一八－二六

戦後における軍縮交渉の概要－軍縮をめぐる東西の争点〔大畑篤四郎〕　二七－四四
外交英語－秋の二つの話題〔磯部佑一郎〕　四五－四九
国際軍の歴史と思想〔岡本順一〕　五〇－五七
外交要語解説　五八－五九
西ドイツ宰相アデナウアー（その八）迫害は続く〔鹿島守之助〕　六〇－六八
文化交流への批判と提言〔岩本常雄〕　六九－七三
国際外交　七四－七五
U2機の国際法違反と宇宙国際法の展望〔帆足計〕　七六－八一
昭和外交史（三）〝おらが外交〟の危機〔戸川猪佐武〕　八二－八八
外交日誌　八九－九二

第九八一号　一九六〇年一二月号

巻頭言　国際異質化と日本外交の再検討〔武内文彬〕　五－五
特集　冷戦の新段階と米ソ新戦略
国際冷戦の新段階〔那須聖〕　六－一三
最近における米国の戦略構想〔小谷秀二郎〕　一四－二二
最近におけるソ連の戦略理論〔完倉寿郎〕　二四－三〇
米ソの核兵器競争〔久住忠男〕　三一－三七
米ソのCBR戦体制〔松本要〕　三八－四三

米ソ心理戦の現段階〔森永和彦〕 四四－四九
国際政治・時の人 ブラジル新大統領になったジャニオ・クアドロス 二三－二三
時事英語 米大統領選よもやま話〔磯部佑一郎〕 五〇－五一
〝国連〟はどこへ行く〔三好修〕 五二－五九
国連軍創設への試案〔岡本順一〕 六〇－六七
外交要語解説 六八－六九
西ドイツ宰相アデナウアー（その九）第二次世界戦争・強制収容所へ送らる〔鹿島守之助〕 七〇－七九
あ・ら・かると 国家の自尊心・賢い言葉・国のトランジスター化 八〇－八一
昭和外交史（四）満州某重大事件〔戸川猪佐武〕 八二－八八
外交日誌 八九－九二

第九八二号　一九六一年一月号

巻頭言 新年に想う〔武内文彬〕 五－五
国連は世界の平和維持に耐えるか－第一五回国連総会をみて〔入江啓四郎〕 六－一一
日本とAA諸国との関係〔大蔵公望〕 一二－一三
座談会 日本外交の新路線〔大島昭・岡田任雄・渡辺誠毅・鈴川勇〕 一四－二五
あ・ら・かると 紙一重の波紋・見果てぬ夢・アイクを国務長官に 二六－二七
アラビア石油と日本の石油産業〔藤岡泰周〕 二八－三四
外交的にみたアラビア石油〔森三郎〕 三五－三九

わが国における原子力とその課題〔石川一郎〕　四〇－四六
時事英語　アイクはこれからどうする？〔磯部佑一郎〕　四七－四九
一九六〇年　世界十大ニュースを回顧する〔小林庄一〕　五〇－五七
資料　マンスフィールド報告についての一問一答　五八－五九
書籍紹介　経済調査協会編『系列の研究』　五九－五九
西ドイツ宰相アデナウアー（その一〇）強制収容所より脱走・
　ブラウウエイラー刑務所〔鹿島守之助〕　六〇－六八
国際政治・時の人　ケネディ・チームの原動力　サリンジャーとハッチャー　六九－六九
レニングラードの感慨〔田尻愛義〕　七〇－七二
中国で芝居してきて〔千田是也〕　七三－七五
外交要語解説　七六－七七
昭和外交史（五）軍縮紛争〔戸川猪佐武〕　七八－八四
宇宙時代におけるパワー・ポリティクス〔孔秋泉（伊藤皓文訳）〕　八五－八九
外交日誌　九〇－九二

第九八三号　一九六一年二月号

巻頭言　ケネディ政権発足と日米新フロンティア時代〔武内文彬〕　五－五
ケネディー新大統領の国家戦略－米外交、防衛政策の新展開〔佐伯喜一〕　六－一一
ドル防衛と世界経済の課題〔広田弘雄〕　一二－二〇

米国のドル防衛措置の原因と影響〔犬田章〕 二一－二八
ケネディ政権の外交理念（一）－その著書、論文、演説を中心にして〔大畑篤四郎〕 二九－三三
ラスク新長官のこと〔岡崎勝男〕 三四－三五
国際政治・時の人 ケネディ政権の顔ぶれきまる 三六－四一
あ・ら・かると コモンウェルス・ポリトビューロウ・共産圏の未来図と〝回教世界〟・〝強いアメリカ〟と〝平和の探究〟 四二－四三
自主外交で世界平和に貢献〔小坂善太郎〕 四四－四八
参考資料 ROSTER of the United Nations（1960. 9. 20） 四九－四九
ドゴールとアルジェリア－第五共和制の帰趨をめぐって〔西野照太郎〕 五〇－五四
ラオスの内戦が意味するもの－米ソ対立の激化と問題解決への道〔野上正〕 五五－五七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一一）ブラウウエイラー刑務所〔鹿島守之助〕 五八－六六
時事英語 アイヒマンの公判迫る〔磯部佑一郎〕 六七－六九
八一カ国共産党の共同声明について〔外交時報編集部〕 七〇－七五
外交要語解説 七六－七七
昭和外交史（六）風雲の急〔戸川猪佐武〕 七九－八五
外交日誌 八五－八八

第九八四号　一九六一年三月号

巻頭言 平和の条件〔武内文彬〕 五－五

ケネディ外交と日本〔蠟山政道〕　六－九
ニュー・フロンティア政策の課題－その世界史的背景と動向〔高山岩男〕　一〇－二〇
ケネディ経済政策の基本方向
－ビッグ・ガバメントによる経済成長政策の積極的展開〔石沢元晴〕　二一－二七
あ・ら・かると　大砲とバターを越えて・四つある米外交の指導中枢・バンドンとカサブランカ　二八－二九
ケネディ政権の外交理念（二）－その著書、論文、演説を中心として〔大畑篤四郎〕　三〇－三五
ケネディ外交への期待と限界〔帆足計〕　三六－四四
写真ページ　米国第三五代大統領に就任したジョン・F・ケネディ　四五－四五
ニューズ・レター　不毛の地から起ち上ったモーリタニア回教共和国
〔スミス・ヘンプストーン〕　四六－四七
背水の陣をしくドゴール－国民投票は「ウィ」だったが〔松尾邦之助〕　四八－五三
国際政治・時の人　フルシチョフ首相の後継者？コズロフ書記　五四－五四
時事英語　ブロードウェイと第五街〔磯部佑一郎〕　五五－五七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一二）再び市長となり再び罷免せらる〔鹿島守之助〕　五八－六六
宇宙法の発展〔池田文雄〕　六七－七三
外交要語解説　七四－七五
昭和外交史（七）満州事変おこる〔戸川猪佐武〕　七六－八一
資料　ケネディ大統領の就任演説（全文）　八二－八五
資料　ケネディ大統領一般教書（全文）　八六－九二

外交日誌　九三－九六

第九八五号　一九六一年四月号

巻頭言 コンゴ問題の世界性と歴史性〔武内文彬〕　五－五
中国外交の新しい胎動－ケネディ政策（ママ）を契機として〔植田捷雄〕　六－一〇
日中貿易関係の現在および将来〔宿谷栄一〕　一一－一七
中国をめぐる外交路線〔河合良成・高碕達之助・田尻愛義・新関八洲太郎・似田博〕　一八－三〇
時事英語 その後のアイク夫妻〔磯部佑一郎〕　三一－三三
知日大使に期待する〔西春彦〕　三四－三四
Main Goals of U. S. Ambassador to Japan〔Robert Klaverkamp〕　三五－三五
中国をめぐる国際情勢〔曾禰益〕　三六－四一
中国における経済建設の現段階〔山内一男〕　四二－四九
あ・ら・かると ワシントンの〝ニュー・ムード〟・スチブンソンの〝頭痛のたね〟・〝アグレマン〟の外交哲学　五〇－五一
西ドイツ宰相アデナウアー（その一三）キリスト教民主同盟の結成〔鹿島守之助〕　五二－六〇
国際政治・時の人 臨時アルジェリア政府首相 フェルハト・アバス　六一－六一
外交要語解説
ヨーロッパ経済統合の底流と問題点〔佐藤和男〕　六二－六三
経済難局ととり組むケネディ政権　六四－七三

－一般教書、経済特別教書、国際収支と金問題に関する教書を読んで〔中島邦蔵〕　七四－七五
昭和外交史（八）陸軍の殺し屋たち〔戸川猪佐武〕　七六－八二
日中関係十五年の俯瞰（上）高姿勢から静観まで〔山村治郎編〕　八三－八九
国際時報　八九－九七
外交日誌　九三－九八

第九八六号　一九六一年五月号

巻頭言　ライシャワー大使を迎えて〔武内文彬〕　五－五
日米関係の経済的新条件〔前田寿夫〕　六－一三
国際政治における日本の方向－新らしいアメリカを訪問して〔中曾根康弘〕　一四－一七
国連のだいどころ〔伊藤政雄〕　一八－二二
時事英語　イギリスこぼれ話〔磯部佑一郎〕　二三－二五
ニュー・フロンティアの二つの意味－前田義徳・ケネディ会談より　二六－二八
国際政治・時の人　英連邦から脱退を言明した南ア連邦　フルウールト首相　二九－二九
西ドイツ宰相アデナウアー（その一四）占領軍政並びに社会民主党に対する闘争〔鹿島守之助〕　三〇－四〇
日中関係十五年の俯瞰（下）〔山村治郎編〕　四一－四五
あ・ら・かると　ナセルの〝回教工作〟・きつねとタヌキ・〝一粒の麦〟　マグレブ　四六－四七
ニューズ・レター　うぶごえ間近かなシエラレオネ〔スミス・ヘンプストーン〕　四八－五〇

昭和外交史（九）国際連盟を脱退〔戸川猪佐武〕　五一－五七
外交要語解説　五八－五九
ケネディ大統領の国防予算特別教書（全文）　六〇－六七
国際時報　六八－七四
新刊紹介　石沢元晴『現代米ソ経済論』　七五－七五
外交日誌　七六－八〇

第九八七号　一九六一年六月号

巻頭言　反乱時代と外交〔武内文彬〕　五－五
ドイツと日本の百年－民主国家への歩み〔蠟山政道〕　六－一一
日独経済外交の課題〔平原毅〕　一二－一七
外交時報誌に寄するドイツ連邦首相のメッセージ　一八－一八
西独戦後の社会情勢と労働運動〔石黒拓爾〕　一九－二五
西ドイツ経済発展の諸条件〔林雄二郎〕　二六－三一
あ・ら・かると　ケネディの憂鬱・拡がった〝延安方式〟・ゲリラ戦術の問題点　三二－三三
西独（ドイツ連邦共和国）再軍備の思想〔井本熊男〕　三四－四一
岡崎国連大使　期待と横顔　四一－四一
国際政治・時の人　ガルブレイス駐印米大使　ケネディ・キャンプのアジア通　四二－四二
時事英語　言葉談義－ライシャワー大使を迎えて〔磯部佑一郎〕　四三－四五

日本繊維産業の現況－その自由化への展望と対策　四六－五五
〔賀集益蔵・原吉平・松村敬一・吉田初次郎〕
外交要語解説　五六－五七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一五）新ドイツ憲法の制定〔鹿島守之助〕　五八－六八
昭和外交史（一〇）協和外交・嵐に立つ〔戸川猪佐武〕　六九－七四
国際時報　七五－八五
外交日誌　八六－九〇

第九八八号　一九六一年七月号

巻頭言　韓国のクーデター－その真相と将来〔武内文彬〕　五－五
今後の日米関係と貿易政策〔佐藤喜一郎〕　六－七
現在の国際情勢に底流するもの－韓国クーデターをめぐって〔森恭三〕　八－一一
ガリオア問題の焦点〔杉山茂雄〕　一二－一七
ガリオア・エロアの内幕（その一）〔広瀬嘉夫〕　一八－二八
時事英語　アメリカ人とは〔磯部佑一郎〕　二九－三一
韓国軍クーデターの真相と性格〔康玄哲〕　三二－三八
国際政治・時の人　若冠三八歳の陸軍中将・張都暎韓国新首相　三九－三九
西ドイツ宰相アデナウアー（その一六）新ドイツ建設の方向〔鹿島守之助〕　四〇－五一
あ・ら・かると　二つの正面・三つの議論・キューバとスエズ　五二－五三

国連事務総長論〔岡本順一〕　五四－六四
昭和外交史（一一）日独防共協定成る〔戸川猪佐武〕　六五－七一
外交要語解説　七二－七三
外交往来　七四－七五
国際時報　七六－八一
国連第一五回総会の足あと　八二－八七
外交日誌　八八－九二

第九八九号　一九六一年八月号

巻頭言　世界的発火点－ベルリンと台湾〔武内文彬〕　五－五
特集　世界外交を支配する思想と人物
ケネディ－平和競争の将来を決定するもの〔茂木政〕　六－一〇
フルシチョフ－力の立場からの平和共存外交〔原子林二郎〕　一一－一七
マクミラン－東西冷戦の緩和に努める英国〔西春彦〕　一八－二五
ドゴール－独裁者とその欧州中心主義〔杉浦徳〕　二六－三三
アデナウアー－西欧中心主義と両独統一問題〔木本三郎〕　三四－三九
毛沢東－新民主主義論と中立否定外交〔蔵居良造〕　四〇－四六
ネルー－社会主義型社会と中立主義〔栗本弘〕　四七－五二
国際政治・時の人　〝イタリアの奇跡〟と〝正直アントニオ〟セニ・イタリア外相　五三－五三

あ・ら・かると　中ソ三つの紛争地点・フルブライトと外蒙古・モンゴリアと米蔣関係　五四－五五
どこへ行くケネディ外交－K・Kウィーン会談が書いた〝現代冷戦白書〟〔三好修〕　五六－六三
人種的差別撤廃の問題－両大戦の間を中心として〔内藤智秀〕　六四－七一
ガリオア・エロアの内幕（その二）〔広瀬嘉夫〕　七二－七六
西ドイツ宰相アデナウアー（その一七）連邦共和国の成立〔鹿島守之助〕　七八－八七
時事英語　イギリス人とは〔磯部佑一郎〕　八八－九一
外交要語解説　九二－九三
昭和外交史（一二）国民政府・相手にせず〔戸川猪佐武〕　九四－一〇〇
外交時報総索引（一九六〇年八月～六一年七月）　一〇一－一〇三
国際時報　一〇四－一一〇
外交日誌　一一一－一一六
巻末附録　昭和外交主要人事一覧表〔秦郁彦〕

第九九〇号　一九六一年九月号

巻頭言　満州事変三〇周年〔武内文彬〕　五－五
世界平和確立のために－欧米の旅より帰りて〔小坂善太郎〕　六－八
欧州経済統合をめぐる外交政策〔荒木信義〕　九－一五
対談　激動する国際情勢と日本の進路（上）〔曾野明・小林庄一〕　一六－二三
あ・ら・かると　ブルギバの手紙・漸進主義者の苦悩・ベルリン危機と宣伝攻勢　二四－二五

外交要語解説　二六－二七
特集　満州事変三〇周年
座談会　満州事変三〇周年〔片倉衷・松木俠・星野直樹・山口重治〕　二八－四一
満州事変と関東軍〔片倉衷〕　四二－五〇
参考資料　宣言　満蒙三千万民衆の楽土建設〔本庄繁〕　五一－五一
満州建国の理念とそれをめぐる人々〔松木俠〕　五二－五七
満州事変の想い出　関東軍の不敵な対策－瀋海鉄路の快足復興〔山口重治〕　五八－五八
満州事変の想い出　清潔な関東軍〔星野直樹〕　五九－五九
満州事変の想い出　満州事変・七花八裂〔石巌山人〕　六〇－六一
西ドイツ宰相アデナウアー（その一八）連邦総理に就任〔鹿島守之助〕　六二－七二
国際政治・時の人　ベールをぬいだ実力者・朴正熙　韓国国家再建最高会議議長　七三－七三
ガリオア・エロアの内幕（その三・終）〔広瀬嘉夫〕　七四－八三
昭和外交史（一三）米・英・ソとの対立〔戸川猪佐武〕　八四－八九
国際時報　九〇－九五
外交日誌　九六－一〇〇

第九九一号　一九六一年一〇月号

巻頭言　ベルリン紛争と全般的・完全軍縮問題〔武内文彬〕　五－五
経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）の背景と課題〔佐藤和男〕　六－一七

対談　激動する国際情勢と日本の進路（下）〔曾野明・小林庄一〕　一八－二六
転期（ママ）に立つソ連－視察旅行から帰って〔桑原季隆〕　二七－三三
あ・ら・かると　東独脱出者激増を好まぬ西側・〝進歩のための同盟〟の抜け穴・プエルトリコと中南米　三四－三五
特集　アジアはアメリカに何を望むか
中国－敵視と猜疑との悪循環　対決の場面へ〔植田捷雄〕　三六－四一
台湾－しのび寄る危機意識　外交的危機に直面〔近藤俊清〕　四二－四六
ラオス－鍵にぎる中立主義　問題解決への可能性〔斉藤吉史〕　四七－五一
日本－自由・民主主義の自信の確立　日米緊密化と理解の問題〔那須聖〕　五二－五八
国際政治・時の人　シリル・アドゥラ・コンゴ中央政府新首相　五九－五九
西と東・東と西　難民群とボストーク　六〇－六一
ウオッチ・タワー　第四回米州経済会議の意義〔谷野英雄〕・二〇年後のソ連経済・ポンド防衛の新路線・ＩＭＦ改革の問題化・黒人問題に悩むアメリカ　六二－六七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一九・終）自由への唯一の道〔鹿島守之助〕　六八－七九
外交要語解説　八〇－八一
綿製品国際貿易会議の教訓－ジュネーヴ会議に使して思う〔村山高〕　八二－八六
昭和外交史（一四）複雑怪奇〔戸川猪佐武〕　八七－九三
外交日誌　九四－九八

第九九二号　一九六一年一一月号

巻頭言 国連所感〔武内文彬〕　五－五
ソ連共産党新綱領の世界史的意義〔江口朴郎〕　六－一一
座談会 ベルリン・核実験・軍縮〔佐伯喜一・関野英夫・渡辺誠毅〕　一二－二二
二つの朝鮮・二つのドイツ・一つの中国〔田尻愛義〕　二三－三三
あ・ら・かると 政治参謀本部と自由諸国共同体・ケネディ大統領をしぼる米議会・冷戦対策にカーペットを　三四－三五
ウオッチ・タワー 核実験再開の背景と今後・英連邦の行方・「東南アジア連合」の発足・ブラジル大統領の更迭をめぐって・インドの綿業はどうなる　三六－四一
欧州共同市場による経済統合と政治統合〔荒木信義〕　四二－四七
ソビエトの核実験再開と日本の輿論〔高橋末光〕　四八－五三
外交要語解説　五四－五五
国連一六年の歩み〔岡本順一〕　五六－六三
現下の国際情勢とインド経済〔野木寛〕　六四－六九
国際政治・時の人 グラール・ブラジル大統領　七〇－七〇
昭和外交史（一五）三国同盟へ突入〔戸川猪佐武〕　七一－七七
国際時報 アドゥラ統一コンゴ政府成る・米ソ宇宙競争年表（付・資料一覧）・戦後東西軍縮交渉史（含・核実験停止の足どり）　七八－九〇
外交日誌　九一－九四

第九九三号　一九六一年一二月号

巻頭言　一般的・全面軍縮に転機〔武内文彬〕　五－五
国際連合の機構改革問題〔入江啓四郎〕　六－一三
軍縮問題の現状と将来－冷戦の道具にするなかれ〔久住忠男〕　一四－一九
国際政治・時の人　ウ・タント暫定国連事務総長　二〇－二〇
時局対談　アンバランス・東と西〔三木武夫・森恭三〕　二一－三〇
時事英語　核実験の妖雲〔磯部佑一郎〕　三一－三三
一九六一年度・国際経済協力の進展－国際会議の回顧と問題点〔荒木信義〕　三四－三九
日米経済合同委の意義　四〇－四一
ＮＡＴＯ最近における諸問題〔西郷次郎〕　四二－五三
低開発国における軍の役割－東南アジア諸国を中心に〔前田寿夫〕　五四－六一
ウオッチ・タワー　西独の低開発国援助における新傾向・国際決済に悩む中共・はかどらぬコンスタンチーヌ計画・イタリアの経済発展　六二－六五
問題をかかえる中共の近況〔蔵居良造〕　六六－六七
燃えあがるか南ベトナム〔梶谷善久〕　六八－六九
外交要語解説　七〇－七一
昭和外交史（一六）謀略の日ソ中立条約〔戸川猪佐武〕　七二－七八
資料文献　ソ連と資本主義諸国の経済競争〔Ａ・ノートキン〕　七九－八八
国際時報　八九－九二
外交日誌　九三－九六